

第61回国連女性の地位委員会
一般討論ステートメント（和文仮訳）

議長,

日本国政府を代表して、パトリオッタ議長をはじめとするビューローメンバーとこの会合の準備に献身的な努力をされた全ての関係者に心から謝意と敬意を表します。

議長,

（女性の経済的エンパワーメントと WAW!）

我が国は、昨年12月に、第3回目となる国際女性会議 WAW!^{ワウ}を東京で開催しました。この会議では、第一線で活躍する国内外の93名がパネリストや登壇者として参加し、ムランボ＝ヌクカ UN Women 事務局長にもご登壇頂き、働き方改革や、女性のリーダーシップ等女性の経済的エンパワーメントに直結する重要なテーマについて様々な視点から議論を行いました。この重要な課題が、第61回国連女性の地位委員会の優先テーマとして取り上げられたことを歓迎いたします。我が国は、本委員会での議論に積極的に貢献したいと思います。なお、CSW 会議中の3月16日には、WAW!のフォローアップイベントを行いますので、是非ご出席頂けますと幸いです。

（国内の取組）

我が国は、全ての女性が自分らしく活躍できる社会の実現を政府の重要課題と位置づけ、安倍総理のリーダーシップの下、働き方改革を経済界と協働して進めています。昨年4月に完全施行された「女性活躍推進法」は、大企業等に対して、女性の採用や雇用の促進に対する数値目標を入れた行動計画を策定・行動することを義務づけており、今年1月時点で、国・都道府県・市町村における行動計画策定率は100%、大企業における策定率は99.9%となっています。また、長時間勤務や転勤が当然とされている労働慣行を変革するため、これまでになく踏み込んだ改善措置に取り組んでいます。実際に、社会全体で女性の活躍の動きが拡大しており、第二次安倍政権発足後の約4年で、女性の就業者数は約150万人増加し、25歳から44歳までの子育て期の女性の就業率も、2012年の67.7%から2016年に72.7%にまで上昇しました。

議長、

(日本の国際的なイニシアティブ)

女性のエンパワーメントは、先進国と途上国の双方において進めることが重要です。SDGsの達成のためにも、日本は双方において貢献したいと考えています。昨年5月に開催したG7伊勢志摩サミットでは、G7議長国として、すべての関係閣僚会合で女性活躍について議論するとともに、G7サミットの歴史上初めて女性を優先アジェンダに掲げ、G7が率先して、女性の能力開花のために具体的な行動を取るための「指針」を打ち出しました。また、安倍総理は、途上国における女性たちの権利の尊重、能力発揮のための基盤整備、そしてリーダーシップの向上

を重点分野として、2018年までの3年間で総額約30億ドル以上の支援を行う旨表明しています。女性・女児のエンパワーメントに向けた教育分野での取組も重要です。この分野で、我が国は、学校施設への女子トイレや女子寮の設置、通学路の安全確保など、女児・女子に配慮した学習環境の整備や女性の生涯教育支援等に積極的に取り組んでいます。

議長、

(結語)

仕事の世界における女性の経済的エンパワーメントを推進するためには、男性と女性双方の意識を変革し、行動を変えていくことが欠かせません。我が国は、自らも変革し行動しながら、志を同じくする国々、国際機関、市民社会と連携し、女性のエンパワーメントを進める内外の取組を着実に進めて参ります。

ご静聴ありがとうございました。